

結婚後、妊娠を機に小川町に引っ越し暮らし始めて10年。隣の家の方から野菜や料理をいただいたり、赤ちゃんを抱いて散歩に出れば必ず誰かに声をかけられることに初めは驚き戸惑いました。しかし今では、人とのつながりが身近であることに魅力を感じています。現在は3人の子供とにぎやかな毎日を送っています。

休日には、川遊びや登山など、家族で季節を楽しむこともあります。また、新鮮でおいしい野菜が安く手に入るので、食卓はいつも野菜たっぷり。おかげで家族みんな野菜が大好きです。家族や地域の方に支えられながら、自然の中で「のびのび」と子供を育てられる環境にあることに感謝するとともに、「小川町で子育てできて本当によかった!」と、つくづく思います。



豊かな自然の中で子育て

尾島久枝さん
Hisae Ojima
(大塚1区)

地域の文化を継承する「神田祭り囃子」



吉田和男さん
Kazuo Yoshida
(勝呂上)

勝呂地区では、津島神社の夏祭りでは、166年前（江戸時代）に勝呂の先人が習い伝えた「神田祭り囃子」の音に乗って、子供みこしが元気に繰り出されます。私が子供のころは、子供みこしにお囃子がありませんでした。高度成長経済下で地域文化が軽視され、ついにお囃子を聞かずに育ちました。祭り囃子が途絶えるという危機感から、昭和47年、当時の「あかしや会」が「神田祭り囃子保存会」を発足し、子供たちに継承する活動を始めました。この取り組みで、これまでにたくさんの演奏者を地域の中で育成し、昭和63年には、県から「文化ともしび賞」もいただきました。勝呂にはほかに守るべきものはあります。私も会員の1人として、先輩たちのこの活動を継承するために、できることから始めようと思います。

傍聴から
はじめよう!!

どなたでも傍聴できます
(事前連絡は不要です)
役場3階にお越しください

次回定例会は
2月28日(木)~
開会は**10時**です



傍聴席の
定員は
40人

No.90
おがわ
ぎ 2019 冬号
12月定例会

No.90
小川町議会だより
平成30年12月定例会冬号
(平成31年2月1日発行)

発行責任者：小川町議会議長 松本修三

編集：議会広報発行特別委員会

委員長 笠原規弘 副委員長 田中照子

委員 戸口 勝・井口亮一・高橋さゆり・島崎隆夫

編集後記

国際情勢が不安定の中、現代社会の先行き不透明な状況は、霧の中を目的地に向かい車を走らせることと同じ。国のかじ取りをする者には減速し安全運転が求められる。一方、当町においては少子高齢社会に伴うさまざまな問題に対し、課題解決のための政策をスピード感を持って展開することが望まれる。こういった中、議会報が住民への情報提供・町政への参画意識を促すものでなければならないと痛感する。まずは手に取ってもらえる議会報を目指したいと改めて思う。(田中照子)

